

Q&A

検査の結果に関して



Q1 検査で異常が見つかったら？

A まずは、異常について詳しく説明いたします。次に、主治医の先生に報告すると同時に、各科の専門医師への紹介状を作成します。当院に専門医がいる場合は当院専門医に、専門医がない場合は近隣の病院に検査結果とともに紹介させていただきます。また、紹介する医療機関の希望がある場合も、できる限り対応させていただきます。

Q2 引き続き、初診・合併症外来で治療はできないの？

A 申し訳ございませんが当外来は、検査と指導を専門におこなう外来です。治療は引き続き、主治医の先生のもとで受けていただく方針とさせていただきます。

Q3 頻回に検査を受けられないの？

A 普段の採血など、頻回に必要な検査は主治医の先生のもとで受けて下さい。合併症の全体的評価、重要な検査をまとめておこなうのが当外来の役割です。

Q4 次、いつ検査すればいいの？

A 検査結果にもよりますが、およそ1年後に再検査することをお勧めします。

Q5 検査費用はいくらぐらいかかるの？

A 検査の項目にもよりますが、
→ 3割負担の方で3万円ほど、
→ 2割負担の方で2万円ほど、
→ 1割負担の方で1万円ほどです。

検査の結果など、わからないことがある場合は
下記にご相談ください。

西の京病院 患者支援センター
☎0742-35-2219



糖尿病合併症の検査説明

診察・検査・指導の流れ

主治医の先生からの紹介



1日(回目) 初回診察日 (予約制で絶食も必要です)

- 診察、持続血糖測定・・・測定期間は8～14日間です
- 採血、検尿
- 胸部レントゲン検査・・・肺や心臓などを診ます
- 栄養指導・・・食事の改善点などを相談します
- 腹部エコー検査、神経伝導検査・・・内臓疾患、神経障害を調べます
- 歯科検診・・・かかりつけ歯科医があれば、そちらでも結構です



2日(回目) 検査日 (初回診察日の1週間後に予約します)

- 血圧脈派検査、心電図検査、持続血糖測定装置の取り外し
- 眼科検診・・・散瞳剤を使用するためご自身の運転での来院は避けて下さい
- 頸動脈エコー検査・・・血管の動脈硬化を判断します
- 頭部MRI・・・脳梗塞が増える60歳以上の方にお勧めします
- 骨密度検査・・・骨折が増える50歳以上女性にお勧めします
- フットケア・・・足の状態を確認します
- 認知症検査・・・認知症が増える60歳以上の方にお勧めします



3日(回目) 結果説明日 (検査日の数日後に予約します)

- 栄養指導・・・食事を頑張れたかなどについて、お話を聞きます
- 看護指導・・・運動も含めた生活習慣について、お話をします
- 診察・・・検査結果の説明、まとめのお話をします
- 検査の異常があれば、専門医を紹介します



検査結果をもとに、主治医の先生のもとで、
治療を継続しましょう。





糖尿病合併症の有無・程度を調べる検査の説明

糖尿病の合併症は全身に発症し、気づかいうちに悪化します。また、内臓のがんも増加します。いずれも、症状のないうちから進行するので、定期的に検査し、早期発見することで悪化を予防することができます。



糖尿病では足、脳、心臓などの大血管が傷んだり、詰まったりします。

3大合併症(細小血管障害)：神経と目と腎臓に発症します。

神経障害

器具や電気刺激を用いた検査などをおこないます。痛みや痺れなど自覚症状がある人は15%程度ですが、自覚症状がない人も含めると30~40%に見られます。

網膜症

目の合併症では網膜症が重要で、定期的に眼科で検査を受けることが必要です。網膜症により、日本では毎年3000人が失明します。

腎症

血液検査や尿検査などで判断します。程度を調べ、食事療法のアドバイスをおこない、治療効果の判断もおこないます。更に悪化すると透析や腎移植が必要になります。

大血管合併症：主に足、脳、心臓の大血管が詰まると発症します。

足

足の血管が詰まると壊疽になり、足を切断しなければならないことがあります。足の血管の血流低下や動脈硬化がないかを調べます。

脳

脳の血管が詰まると脳梗塞になり、半身まひなどを起こします。また糖尿病では症状がない脳梗塞もあるため、頭のMRI検査が必要です。

心臓

心臓の血管が詰まると狭心症や心筋梗塞になり、命にかかわります。

糖尿病の詳細な検査

採血・検尿

通常よりも詳細な検査で、糖尿病の原因、状態などを詳しく精査します。従来2型と診断されていた患者さんでも、ほかにも原因が見つかる場合があります。

持続血糖測定

8日~14日間かけて、食事、間食、運動などでの血糖の変動を診ます。血糖変動のパターンを見ながら、運動のタイミングの提案や、栄養指導などをおこないます。

心臓や血管、その他の検査

頸動脈エコー

全身の血管を代表して、首の血管を超音波検査で検査することにより、大血管の動脈硬化がどの程度進んでいるかを把握できます。

心電図

虚血性心疾患を見つける、もっとも簡単な検査です。また、不整脈なども診断できます。

胸部レントゲン

心臓の大きさや、肺に異常がないかを検査します。

血圧脈波

動脈血管の硬さや足の動脈の詰まりを検査します。

フットチェック

糖尿病の患者さんは、小さな靴ずれなどから細菌が入って、足が壊疽してしまうことがあります。看護師とともに足の状態をチェックし、日々のケアについて指導します。

脳の検査：頭部MRI

糖尿病の患者さんでは、無症状でも小さな梗塞が見つかることがありますので、特に60歳を過ぎた方は検査を受けることをお勧めします。

認知症検査

糖尿病の患者さんは認知症になりやすいことが知られています。60歳を過ぎた方は検査を受けることをお勧めします。

がん・骨密度などの検査

腫瘍マーカー

糖尿病患者さんは特に消化管や内臓のがんになりやすいことが知られています。がんを疑う場合、消化管、肝臓、胆嚢、膵臓、前立腺の腫瘍マーカーを測定し、隠れたがんがないかを調べます。

腹部エコー

糖尿病で引き起こされる様々な変化(脂肪肝、胆石、膵炎、腎症等)を画像で調べる事ができます。

骨密度検査

骨折が増える50歳以上女性にはお勧めします。

歯科検診

糖尿病の患者さんは歯周病が2倍多いといわれ、歯周病の患者さんは血糖値が上がりやすいことが知られています。大切な歯を失わないためにも、歯科検診をお勧めします。

さらなる追加の検査 (症状があればおこないます)

便検査

便に含まれる血液を検査することで、大腸がんの早期発見に役立ちます。

上部内視鏡検査

胃がんや胃潰瘍、ピロリ菌の有無などを診断します。

下部内視鏡検査

大腸がんや大腸ポリープなどを診断します。